

公開セミナー

まちづくりを可視化する評価システム

【日時】 2020年1月31日(金) 15:00-17:00 (開場14:30)

事前登録制

【会場】 東京大学本郷キャンパス

入場無料

情報学環・ダイワユビキタス学術研究館 石橋信夫記念ホール

【主催】 東京大学公共政策大学院 寄付講座「都市地域政策と社会資本マネジメント」

開催趣旨

アマゾンが第2本社(HQ2)建設の候補地を公募したことに典型的に見られるように、企業はどの都市や街に拠点を立地するかを自由に選ぶことができる。そして、企業で働こうと考える有能な人材や、企業への投資を考える投資家といったステークホルダーもまた、企業がどの都市を選ぶかを注視している。

都市はいまや、気候変動対応、レジリエンス、クオリティ・オブ・ライフ、アフォーダビリティなど多様な視点からその「性能」を総合的に評価される時代となったのである。こうした流れを受けて、LEED for Cities / CommunitiesやWELLなど、グローバルなレベルで都市や街の性能を比較・検証するための評価システムの開発が進められている。いわば「まちづくりの見える化」である。

そこで本セミナーでは、LEED、WELL等の環境評価指標に造詣の深い平松宏城氏をお招きして、グローバルな都市間競争の中で都市や街が企業や人材、投資家から「選ばれる」ための条件や課題について議論を行うこととした。

※本セミナーは、寄付講座「都市地域政策と社会資本マネジメント(三井不動産)」の研究・交流活動の一環として行われます。

プログラム

15:00-15:30

『イントロダクション - 都市が選別される時代』

辻田昌弘 東京大学公共政策大学院特任教授

15:30-16:15

『まちづくりを可視化する - LEED for Cities / Communities』

平松宏城氏 (株)ヴォンエルフ代表取締役

(一社)グリーンビルディングジャパン共同代表理事

16:15-17:00

ディスカッション

お申し込み先

<https://mfec.jp/>

講演者プロフィール



平松宏城 氏（ひらまつ ひろき）
株式会社ヴォンエルフ代表取締役
一般社団法人グリーンビルディングジャパン共同代表理事

日米の証券会社に勤務後、無秩序な景観やスクラップ&ビルドの繰り返しで富の蓄積のない日本の国土形成の在り方に疑問を感じ、ランドスケープデザイン・グリーンビルディングの世界に転進。環境NPOでの3年間を経て、2006年に（株）ヴォンエルフを立ち上げる。以来一貫してグリーンビルディングと持続可能な都市デザインの普及、また金融システム・ESG投資との連携を通じた都市環境の再構築を目指す。2013年2月、（一社）グリーンビルディングジャパンを立ち上げ、LEED認証やWELL認証などの性能評価システムを用いることで、環境にも健康にも優れた建物と街の普及を推進している。



辻田昌弘（つじた まさひろ）
東京大学公共政策大学院特任教授

1958年生まれ。一橋大学法学部卒。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士。技術士（都市及び地方計画）。三井不動産（株）入社後、経団連21世紀政策研究所研究主幹、三井不動産S&E総合研究所長などを歴任。主な著書に『マーケティング革新の時代③ブランド戦略』『地活な人々 ころゆたかに地域活性化』『地域創生のプレミアム戦略』『地域産業のイノベーションシステム』（いずれも共著）。ミズベリグ・プロジェクトアドバイザーボードメンバー。

会場案内図

